

教育学部 後援会誌

第6号



教育環境の充実化と 安心した学生生活を目指して

後援会会長 曽田 悟

春暖の候、島根大学教育学部後援会員の皆様方に
は、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、当後援会の活動に対しまして、格別のご理解と
ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

昨今、わが国の経済・社会情勢は、一昨年秋の世界的な金融不安により消費の減退と相まってデフレスパイラルが懸念される状況に陥っております。これに伴い、一部の環境対策商品を扱う企業を除き更に低迷が予想されます。こうした中、永年島根大学の運営・発展にご尽力頂きました本田雄一学長が退任され、昨年4月より山本廣基学長が就任されました。山本新学長は、島根大学を「学生満足度日本一の大学・地方国立大学のトップ校・とりわけ、学生教育及び地域貢献のモデル校となるよう目指したい」と抱負を述べておられます。当後援会も更なる島根大学の発展を願い活動していく所存でございます。

さて、教育学部後援会は、この度会員の皆様方に活動内容を把握して頂くため、新たに島根大学教育学部後援会のホームページを開設させて頂きました。これにより、タイムリーに情報を共有することが出来るのではないかと考えております。今後は、内容をさらに充実させ運営して行きたいと思っております。

後援会による教育学部支援事業は、皆様方もご承知のように大きく分けて7つの事業を行っていますが、本年度は新たに3つの特別事業を追加しました。まず1つめは、新型インフルエンザの蔓延により毎年恒例の学園祭が中止

CONTENTS

- ◆後援会会長あいさつ 1
 - ◆教育学部長あいさつ 2
 - トピックス<1>
 - ◆特色GP総括 3
 - ◆学内資格認定制度 4
 - トピックス<2>
 - ◆教師力パワーアップセミナー 5
 - ◆卒業生の声 6・7
 - ◆後援会活動の概要 8
- 教育学部後援会幹事名簿

になったこともあり、急遽学生への新型インフルエンザ感染防止対策として、消毒液(20本)、マスク(500枚)を購入し、出入口等への消毒液の設置、マスクの配布を実施しました。これにより、インフルエンザの感染拡大防止につなげることが出来たと思います。2つめは、学生の防犯対策として防犯ブザー(12個)を購入し貸出をしております。大学としても、学内の防犯灯の増設や川津地区(大学周辺)の防犯パトロール事業への参加により、防犯対策を講じています。そして3つめは、学生の学習環境の充実を図るため、個人用パソコンを持っていない学生でも自由にパソコンを利用し学習等が出来るICTルーム(通称「金魚鉢」)の開設を行いました。それに併せてこの部屋に設置する学生用パソコン購入の補助並びに関連書籍、消耗品等購入の補助なども行いました。また、この他に、学生のプロファイル・シートシステムへの入力やレポート作成等、学習のために使用出来る貸出用ノートブックパソコン20台が整備されました。

これからも活動も含め、今後も当後援会は教育環境の充実化及び、安心した学生生活が送れることを目指し、教職員の皆様方と後援会会員の皆様方との意思の疎通を図りながら、学生たちの目指す道を照らして行きたいと思います。

最後になりましたが、皆様方のご支援により本会は運営されています。今後ともご理解とご協力を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。



教員の養成から教師教育へ

島根大学教育学部がめざす「教師力」とは

教育学部長 高岡 信也

後援会員の皆様方、ご健勝のことと拝察申し上げます。日頃から、島根大学教育学部の教育活動にご理解を賜り誠に有難く存じます。そして平成22年度入学生の保護者の皆様、島根大学教育学部へようこそ。

島根大学教育学部は、平成16年を期して、未来の教師を育成する教員養成特化型の学部に衣替えいたしました。以来6年が経過しましたが、この間、学部の先生方、附属学校の先生方、そして学生諸君の真摯な努力によって、全国の教育大学・学部の中でも最も特色ある教育カリキュラムを有する大学として注目される存在になりました。「100時間体験学修」や「プロファイル・シート」による教師力育成システムには、全国の多くの大学から引きも切らない視察や問い合わせが殺到しています。特に平成21年度には、文部科学省の教員養成担当部局から、「島根の実践を直接みたい、全国の教員養成のモデル大学として取り上げたい」という声が上がり、3回にわたって視察されました。

私たちがめざしてきた「教員養成教育の改革」という目標は、この6年の取組でかなりの精度で達成されたと思っています。

戦後すぐに成立した「教員養成は大学でおこなう」という理念と制度は、60年の時間を経て、少し制度疲労を起しかけていました。島根大学では、「教員養成教育の再生」という理念を掲げ、「教員の養成から教師教育へ」という

筋道を構想しました。教員養成の「養成」とは、トレーニング(TRAINING)の訳語で、訓練とか練習のことです。教員養成とは「若者を、教員という公的職業に就けるように訓練すること」と言い換えることができます。さらに言い換えれば、「教師として身につけるべき(教科の教育方法や教育相談等に関する)技術を修得させること」です。

一方、教師教育という言葉に含まれる「教育」(EDUCATION)には、単なる教える技術の修得を越えた、人格的な成長を促す営みという意味があります。まさに、感受性や他者に共感する力、思考力や判断力といった知的能力、好奇心や美的感覚等、総体としての人格形成が含まれています。教師という職業人を育てるとは、そのような意味での人格形成を基礎に、「教師力」という職業的能力を積み上げることなのです。

複雑な教育問題を解決するには、高度で専門的な知識、技術、技法が必要です。しかし一方、その知識や技術を駆使し、日々子どもたちに立ち向かうのは、人間としての教師であるはずです。人間としての魅力に溢れた人にしか教師という職業につく資格はない、「教師」を育てるとは、まずは、すぐれた社会人としての「おとな」を育てることであって欲しいということに尽きると考えます。皆様のお子様方は、今、教育学部で教師をめざして懸命に努力を重ねています。是非一人ひとりの成長を見守っていただきますよう、改めてお願ひいたします。

Topics

1

島根大学教育学部ICTルーム

ICTルーム「金魚鉢」がオープン!

本年2月5日、教育学部にICTルーム(愛称「金魚鉢」)がオープンしました。

ICT(Information and Communication Technology)ルームは、インターネットを利用した作業・課題解決・グループワークなど、学部生や大学院生、教職員の皆さんのが自由に利用できる共有スペースです。設置された14台のPC、またPCを持ち込んでの利用も可能です。雑誌・書籍など諸教育情報も整備しています。

- 利用時間:土日・祝日・夏季や冬季休暇の一定期間を除く平日の9時~21時
- 利用規定(一部):持ち込んで使用するPCやUSBメモリーなどは事前にウィルスチェックがされていること。飲食の禁止など。
- 管理:附属教育支援センター
- 場所:教育学部棟236号室



きんぎょばち
金魚鉢

島根大学教育学部ICTルーム

(ロゴ制作:芸術表現教育講座:小谷 充)

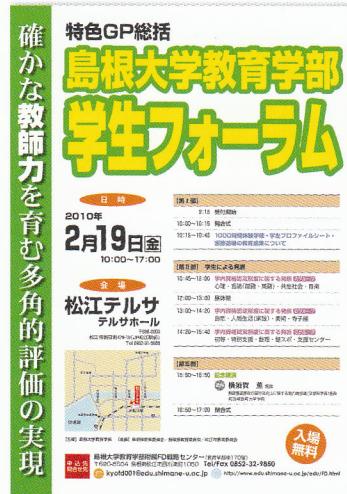
「レポート、“ばち”でまとめようか」「履修登録、プロファイル、“ばち”でやっておこう」

特色GP総括

島根大学教育学部学生フォーラム ～確かな教師力を育む多角的評価の実現～

山陰地域における教員養成基幹学部となった島根大学教育学部は、<1000時間体験学修>を皮切りに多様な教員養成教育改善に取り組んできました。幸いこれらの取り組みは高い評価を受け、「教員養成GP」(大学・大学院における教員養成推進プログラム、平成17~18年度)、「特色GP」(特色ある大学教育支援プログラム、平成19~21年度)に続けて選定され、<プロファイルシート><面接道場><学内資格認定制度>といった特徴ある教育プログラムを充実させながら、学生の「確かな教師力」育成を図ってきました。

この特色GP総括「学生フォーラム」は、これまでの本学部の教育成果について総括する場であると同時に、地域社会との往還の中で得られた教育成果と課題を、地域社会に向けて発信する場として企画しました。学生による実行委員会を組織し、会の運営も含めて学生たちが企画・構成するフォーラムです。



日時 平成22年2月19日(金) 10:00~17:00

会場 松江テルサ「テルサホール」

テーマ 確かな教師力を育む多角的評価の実現

プログラム 第I部 開会式

1000時間体験学修・学生プロファイルシート・面接道場の教育成果について

第II部 「学内資格認定制度」に関する学生による発表

Aグループ [心理・言語(国語・英語)・共生社会・音楽]

Bグループ [自然・人間生活(家政)・美術・寺子屋]

Cグループ [初等・特別支援・数理・健スポ・支援センター]

第III部 記念講演

『教員養成これまでこれから』

横須賀 薫先生

「教員養成課程の質的な向上に関する協力者会議(文部科学省)座長」

「前宮城教育大学学長」



学内資格認定制度

学内資格認定制度は、「1000時間体験学修」の中で取り組まれている「基礎体験領域」「専攻別体験活動」等について、学生が4年間に取り組むプログラムの体系化を図り、一定の基準に達した者に「資格」を与えるものです。これは「1000時間体験学習の質の向上」をねらいとして創設されたものであり、以下のようなイメージがこの制度の背景にあります。

- 各体験学修が一定のステップアップ、あるいはスキルアップのプログラムになるよう構造化すること
- その際、学部で行われる授業科目（講義や演習等）と体験とを関連づけること
- 地域の質の高い教育ニーズを受けとめた資格認定制度であること
- 学生が自らの目標とし、挑戦する意欲をもてるような高度な内容をめざすこと
- 「資格」は、学生の教師力（専門性）が地域社会の期待に応えられるレベルに達していることを、学部が明確に保障するものであること
- 教員採用試験などの就職活動の場において、学生が自信を持って社会に誇れる内容にすること
- 地域社会との協同の中で育っていく学生が、この「資格」による質の向上によって、地域社会を育てていく側に成長していくこと

これまで34名の学生に資格が付与されました。

【平成20年度】14名

- 保健室メンタルソーター（心理・臨床専攻）…………… 3名
- 特別支援地域ソーター（特別支援教育専攻）…………… 3名
- 英語学習指導リーダー（英語教育コース）…………… 1名
- 国語学習指導学生リーダー（国語教育コース）…………… 2名
- サイエンスマイスター（自然環境教育専攻）…………… 3名
- 美術館ボランティア活動マイスター（美術教育専攻）…………… 2名



【平成21年度】20名

- 初級メンタルフレンド（心理・臨床専攻）…………… 2名
- 子どもスポーツ活動コーディネーター（健康・スポーツ教育専攻） 4名
- 美術館ボランティア活動マイスター（美術教育専攻）…………… 2名
- 体験学修ピア・ソーター（教育支援センター）…………… 8名
- 学校教育ソーター（教育支援センター）…………… 3名
- コミュニティーサービス・ソーター（教育支援センター）…………… 1名



Topics

2

文科省初等中等教育局 山下教職員課長が教育学部を視察

2月5日、文科省初等中等教育局山下教職員課長が教育学部を訪れ、同学部が進める教員養成改革への取り組みについて視察が行われました。

当日は高岡学部長、高旗准教授から、平成16年度改組において選択した教員養成特化型学部の学部組織として学部を挙げて取り組んできた「教員養成三位一体改革」の内容及びこれを具体的に実現するものとして取り組んでいる「1000時間体験学修プログラム」、「教育内容学の構築」、「プロファイルシートシステム」等について説明が行われました。



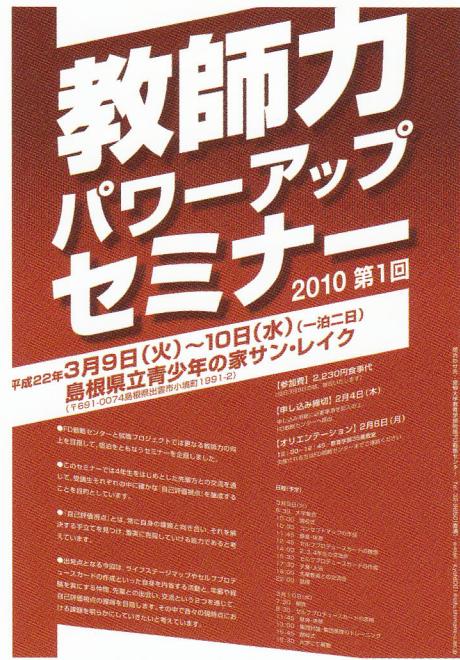
教師力パワーアップセミナー

FD戦略センターと就職プロジェクトの合同企画として、「教師力パワーアップセミナー」を開催しています。昨年3月にスタートし、6月までに計6回実施し、12月に7回目を実施しました。7回目は学級づくりや学級経営、児童・生徒指導の具体的な方法の研修、学級開きの模擬授業など、より実践的で具体的な内容に対して現役教員やサポートマイスター、学部教育活動評価委員からアドバイスをいただきながら学んでいきました。

本年3月には、学部2年・3年を対象として、本年第1回目のセミナー(宿泊研修)を実施し、約90名の学生が参加しました。内容は昨年とほぼ同様ですが、以下その内容を紹介いたします。

日 時 平成22年3月9日(火)～10日(水)

会 場 島根県立青少年の家サン・レイク



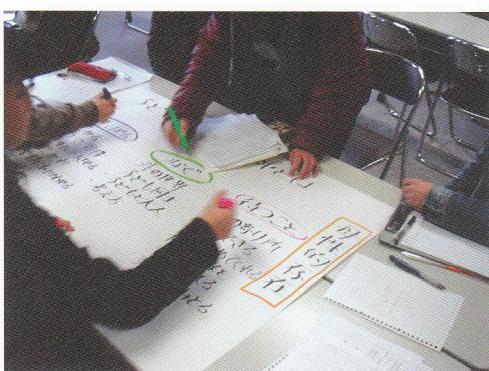
内 容

◆1日目(3月9日)

- 課題提出(事前オリエンテーションで提示した課題について学部教員が添削を行う)
- グループごとにコンセプトマップを作製・発表
- セルフプロデュースカードの作成
- 4年生(教員採用試験合格者)との交流会
- 先輩教員との交流会

◆2日目(3月10日)

- セルフプロデュースカードの添削(4年生、学部教員が添削)
- 集団討論・集団面接(学部教育活動評価委員・サポートマイスターを講師に)



卒業生の声

価値ある4年間を

特別支援教育 伊藤 翔太

私はこの4年間を通し、多くの時間を勉強やボランティア活動に費やしました。正直なところ、もっと旅行に行ったり遊んだりしたかったという気持ちはありますし、遊びに誘ってくれる友人に「またボランティア?」と呆れられることも数多くありました。ですが、今振り返れば私のこの4年間は充実した時間だったと胸を張って言えます。



もう社会人の一員ではあるが、しかしながら学生という立場でもある、「大学生」の微妙な位置は、見ると中途半端な立場にも捉えることができるかもしれません。しかし大学生は、特権であるその「自由さ」を生かして非常に多くの方面から学び、吸収できる恵まれた立場だと思います。私は特別支援教育を専攻したことで、特に島根県の障害児教育・福祉関係の方面においてたくさんの方々にお会い、各方面的それぞの立場から話を聞いていたり実際に活動を手伝わせてもらいました。大学生だったからこそ、聞かせていただくことができた保護者の方の本音もあり、逆に表にはなかなか出ない学校側の苦労や様子も知りました。この経験はきっと、私のこれから的人生に大きく影響を与えると感じています。また、ボランティア先での多くの出会いや体験は採用試験への大きな自信になりました。来年度から特別支援学校の教員として働くことにも繋がりました。

しかし、もしボランティアではなく旅行を選んでいたとしても、友人たちとの旅行も二度とできない経験であり、その時も充実した4年間だったと私は言っていると思います。大学生活で何にどれくらいの時間を使うかは一人ひとり違う、それがよかつたかどうかは本人にしかわかりません。大学生活のすべてに、大学生にしかできないという大きな価値が含まれていると思います。

充実した4年間!!

健康・スポーツ教育 小林 瞳



私が、大学生活でいちばん力を入れたと思うことは、部活動です。4年間柔道部に所属しており、週6日練習をしてきました。その中で、何度も辞めたいと思うこともありましたが、4年間部活動を続けてきたことで多くの思い出、そして多くの人のつながりをもつことができました。1つのことを最後まで続けたことで、私は、続けることの大切さを学び、それは自分への自信につながり、大きく成長することができたと思っています。

私は、昨年の7月に教員採用試験を受けました。教員採用試験を受けている間も、柔道部の主将を担っていたため、部活動と勉強の両立にとても苦労しました。しかし、周りの多くの人たちの支えと、4年間部活動を続けてきたということが自信に変わり、このたび広島市教員採用試験にも合格することができました。

また、大学生活ではアルバイトや1000時間体験活動というカリキュラムの中でのボランティアを通して、働くことの難しさや、異年齢の人達とコミュニケーションをとることの大切さも学ぶことができました。

大学4年間での経験は、今年の4月から社会に出て行くあたり、私にとって、とても大切な財産になると思います。そして、大学で学んできたことを大切にして、4月から自分の理想としている先生に一步でも近づけるように頑張っていきたいと思います。

出会いを大切に

初等教育開発 原 平

大きな期待と小さな不安を胸に大学生活をスタートさせてから、あっという間に月日が流れ、卒業を迎えようとしています。

大学生活では、仲間や先生方、ボランティア先の職員の方、子どもたちなど、たくさんの方との出会いがありました。たくさんの方と関わっていくなかで刺激を受け、育てていただきました。また、ひとつひとつの出会いのなかに多くの気づきがあり、学びを得ることもできました。この4年間の出会いは、私の成長を支えてくれた大きな宝物です。

人と関わる仕事がしたいという漠然とした将来を見ていた私ですが、教育実習や小・中学校での学習支援、地域でのボランティア活動等を通して、自分の目指す将来像をはっきりと思い描くことができるようになりました。小学校教員になりたいという大きな夢を持つことができ、その夢に向かってがむしゃらに突き進みました。

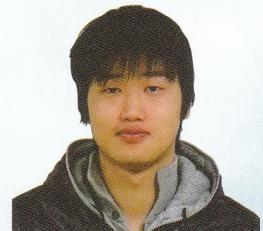
そして今、入学当時と同じように、期待と不安を胸にスタートラインに立とうとしています。4月からは、島根県の小学校教諭として現場で勤務することになります。今まで以上に高い壁にぶち当たることも多々あると思いますが、真正面から子どもたちと向き合っていきたいと思います。笑顔で元気よくをモットーに、子どもたちに学ぶ楽しさを伝えていきたいと思います。そして、これからもひとつひとつの出会いを大切に、子どもたちとともに日々成長していきたいです。



実りある大学生活のために

自然環境教育 鈴木 雄也

お子様の大学ご入学、本当におめでとうございます。私にとってこの島根大学での4年間は、とても楽しく充実した時間でした。ですから、今年大学を卒業しなければならない私にとって、これから4年間たっぷりと自分の夢に向かって自分のやりたいことができる新入生たちを、とても羨ましく思います。



そんな新入生たちに、これから大学生活を少しでも有意義なものにするために、一つだけ伝えたいことがあります。それは、「求めなければ何も得られない」ということです。大学での生活はこれまでの高校生活とは違い、授業で何を学ぶか、空いている時間をどう過ごすかなど沢山の自由があります。しかし、自由だからこそ、目指すものを持って自分から求めていかなければ成長のチャンスはやってこないと思います。私が目指したものは、あるボランティア活動で出会った先輩やスタッフの方々でした。自分もみんな風に人前に立って堂々と話ができるようになりたい。こんな風に子ども達から信頼されるような大人になりたい。自分が目指したい姿や目標に向かって本気になって取り組むからこそ、そこには沢山の分からぬことや出来ないことが見えてきます。それを一つひとつ自分の意志で乗り越えてきたことが、今の自分の自信や成長に繋がっていると思います。私は4月から神戸市の中学校の教師として子ども達の前に立つことになります。これから経験することすべてが、分からぬことやできないことばかりだと思います。しかし、そのような状況の中でも自分の目指すものを見失わずに、子どもたちと共に自分の成長を求める続ける教師になりたいと思っています。

大学生活はとても楽しく、4年という時間は一瞬で過ぎ去っていってしまいます。勉強、部活、ボランティア活動、バイト、サークルなど、大学には打ち込めることがたくさんあります。是非、その中で自分が目指したいものを見つけて、夢中になって頑張って欲しいと思います。それがきっと、この先の自分の自信や成長に繋がっていくと思います。

**後援会は、みんなの会費で運営されています。
お子様の大学生活を支援する後援会に是非御加入下さい。**

☆会費の納入は、入学手続きの際に配布した封筒に同封されている「銀行振り込み用紙」をご利用下さい。
☆会費納入口座は、「山陰合同銀行島大前支店(普)」2702605 島根大学教育学部後援会です。
☆お問い合わせは、後援会事務局(TEL.0852-32-6251 教育学部総務係)までお願いいたします。

(メールでのお問い合わせは、kyo-soumu@jn.shimane-u.ac.jpまで)

教育学部後援会のホームページのURLは <http://www.edu.shimane-u.ac.jp/edu/koenkai.html>

後援会活動の概要

(平成21年度)

① 学生教育活動の支援

1,000時間体験学修、面接道場、学生フォーラム、教師力パワーアップセミナー、ビビットひろばなど学生教育活動事業経費への助成

② 教育実習の支援

- ①教育実習を充実させるため、各実習受入校の実習経費への助成
(学生が実習で使用する文房具や教材等の助成など)
- ②実習受入校との「教育実習連絡協議会」開催経費への助成
- ③教育実習ワークシート作成への助成

③ 就職活動の支援

- ①教員志望学生の援助
教員採用試験に向けての対策と指導に関する経費及び各都道府県教育委員会への就職依頼に関する経費への助成
- ②企業志望学生の支援
就職ガイダンスを開催し、企業就職関連の各種セミナー等を行なう経費及び就職委員会の担当教員等を中心に、県内外へ出向いての企業就職開拓活動経費への助成
- ③就職支援室の書籍整備などへの助成

④ 国際交流活動の支援

教育学部と国際交流協定を締結している外国の大学との交流活動及び学生派遣経費等への助成

⑤ 教育環境整備の支援

構内の教育環境の改善を図り、学生の生活環境の向上及び充実のための施設整備経費への助成(トイレ内整備、玄関の花壇整備など)

⑥ 広報事業の実施

後援会事業活動報告及び学部の教育・研究活動並びに学生生活の様子等をお知らせするための後援会「機関誌」を発行

⑦ 課外活動の支援

在学中における各種部活動、大学祭、寮祭、中四国大学学生競技大会参加等の活動費への助成

⑧ その他

- ①インフルエンザ感染予防のための消毒液、マスクの購入助成
- ②防犯ブザーの購入・貸出し
- ③ICTルームの開設にあたり、パソコン、書籍整備などへの助成

平成21年度

教育学部後援会幹事名簿

(18名／順不同)

地区	氏名	課程	学生氏名	備考
簸川郡	曾田 悟	院 1	曾田茉莉香	会長
松江市	小村 陽悦	院 1	小村さやか	
松江市	飯塚 節子	学校教育 4	飯塚 洋平	
安来市	大西 啓治	学校教育 4	大西 美貴	会計幹事
飯石郡	福島 浩	学校教育 4	福島 彩	副会長
東出雲町	福間 真澄	学校教育 4	福間 春奈	
出雲市	稻田 隆嗣	学校教育 3	稻田 隆志	
米子市	河田 健志	学校教育 3	河田紗絵香	
隱岐郡	木村 一則	学校教育 3	木村 佳則	

地区	氏名	課程	学生氏名	備考
出雲市	角 美幸	学校教育 3	角 真理子	副会長
松江市	長谷川芳人	学校教育 3	長谷川 圭	監事
境港市	安達 義昭	学校教育 2	安達 宏樹	
松江市	古川 康徳	学校教育 2	古川 花乃	
出雲市	持田 剛	学校教育 2	持田 諒子	監事
米子市	大場 明夫	学校教育 1	大場 智子	
松江市	奥村 忠孝	学校教育 1	奥村 裕孝	
雲南省	景山 博司	学校教育 1	景山 雄平	
大田市	吉田 芳英	学校教育 1	吉田 彩乃	

○発行 島根大学教育学部後援会 ○発行日 平成22年3月19日 ○発行所 島根大学教育学部内 教育学部後援会事務局
○所在地 〒690-8504 松江市西川津町1060 TEL(0852)32-6251 FAX(0852)32-6259
○印刷 ぷりんとはうすM2エムツー